地区社会教育情報誌

いもこじ

第61号【年３回発行】
令和7年12月1日
日置地区社会教育振興会
〈事務局・編集〉鹿児島教育事務所

文化財 喜入旧麓（もと）での日本遺産の活用！

文化財保護審議会委員及び文化財行政担当者等研修会

７月15日（火），鹿児島市喜入公民館において，鹿児島市，日置市，いちき串木野市の文化財保護審議会委員や行政関係者ら約30名が参加し，文化財行政の最新動向や現場での対応について理解を深めました。

事例発表では，鹿児島市教育委員会文化財課 主任指導主事の真鍋雄一郎氏が「日本遺産の活用について」と題して発表しました（写真右）。真鍋氏は喜入旧麓における日本遺産活用の具体例として，教職員や一般向けのガイドツアー，近隣学校への日本遺産出前授業，PRポスター制作，日本遺産フォトコンテストなどを紹介し，認知度向上と観光誘致につなげるための様々な工夫を挙げました。特に，喜入旧麓交流館「陽だまり」は，喜入校区まちづくり協議会が主体となって運営され，地域でストーリーを継承・発信する仕組みが整備されている点が注目されました。

全体研修では県教育庁文化財課の阿比留士朗文化財主事と，倉元慎平文化財研究員から本県の文化財保護行政の概要について説明がありました（写真左）。

各市村の取組等発表では，後継者や担い手不足などの共通課題が指摘され，参加者からは「他地域の取組を知る貴重な機会だった」といった声が寄せられました。

研修視察は猛暑の中でしたが，鹿児島市教育委員会文化財係の職員の案内により，肝付家歴代墓地，香梅ヶ渕など喜入旧麓周辺の史跡について丁寧な解説が行われました。

本研修は文化財の保護・継承に関する専門性の向上と地域間の連携促進に資する貴重な機会となりました。

研修視察 ～「喜入旧麓」を歩く～

日本遺産「認定を継続」薩摩の武士が生きた町

文化庁は令和７年７月31日，認定済みの日本遺産について総括評価・継続審査を実施し，「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」を「認定継続」とすることを発表しました。

※　総括評価等については文化庁ホームページに掲載

★　日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」には串木野麓も含まれています。

日和下駄

郷土芸能の危機と変革

いちき串木野市教育委員会
主幹兼文化振興係長　新町　正

近年、少子高齢化などにより様々な郷土芸能が消滅したという話をよく聞きます。

本市でも状況は同じで、例えば郷土芸能存続のために運営補助を行ったり、各種メディアを通した広報、周知を行ったりするなど側面からの支援を行っております。

郷土芸能は、単なる祭り（イベント）ではなく、「神事」という側面を強く残すものが多くあります。それゆえに様々な禁忌など決まり事が多く存在します。こうした禁忌などの決まり事は、それを大切に守ることにより、共通の仲間意識や郷土愛を育み、それが伝統を守り続けていく力となっていました。

しかし、現代社会の中で、これら多くの決まり事は郷土芸能を存続しようとする力を逆に弱め、存続の危機を招く要因の一つにもなってきています。この問題解決に向けて保存会は話し合いをもち、少しずつ現状に合わせながら変革しようとしています。

行政としては、先祖代々受け継いできた郷土芸能という宝を、地域がどのような決断をし、今後、どう保存していくのか、その適切な判断をするためのアドバイスや協力を今後もしていきたいと思っています。

女性の知恵と実践で！
～持続可能な地域女性連であるために～

日置地区地域女性団体連絡協議会

第37回日置地区ふるさとを興す保健・福祉学習大会
第39回日置地区ふるさとを興す組織・教育・食料・環境学習大会

８月29日（金），日置市吹上中央公民館にて，本大会が約110人の参加を得て，盛大に開催されました（写真右）。

前半は保健・福祉学習大会で，県民総合保健センター健康支援課の保健師・重吉美佳子氏（写真左）による「楽しく！自分らしく！～今日からできる健康習慣～」と題した講演が行われました。健康寿命を延ばす秘訣や日常の過ごし方について，「食事」「運動」「つながり」の視点から指導がありました。さらに，筋膜ケアの時間には，凝り固まった体をほぐし体全体の機能を高める運動を全員で実践しました。

後半は組織・教育・食料・環境学習として，２名の登壇者（写真下）がそれぞれの立場から提言を行うシンポジウムが開催されました。

★吹上地域女性連絡協議会会長 平峯恵美子さんは，組織づくりについて，吹上地域の「リーダー研修会」が，組織の持続的な成長に大きな役割を果たしてきたと述べました。また，教育活動については，早くから取り組んできた「ブックスタート」事業に加え，令和に入ってから新たに「サードブック」事業を展開するなど，子供たちの読書活動に継続的に関わっていることなどを発表しました。

★生福地区まちづくり協議会女性部会長 生野喜久子さんは，食料・環境学習に関して，「生福の黒にんにくづくり」を発表しました。過疎と高齢化が進む生福地区の活性化を目指し，女性部はまちづくり協議会と連携してプロジェクトを立ち上げました。中学生の協力も得ながら，植え付けから，収穫，加工，販売に至るまで黒にんにくづくりに積極的に取り組んできた経緯と具体的な活動内容について話されました。

会場では活発な意見交換が行われ，地域女性連の活動の意義やこれまでの成果と今後の課題が改めて確認されました。地域づくりの輪を広げ，お互いに支え合う地域社会の実現に向けて取り組もうとする女性会員のパワーを感じる大会となりました。

日置地区公民館経営研究会

公民館の運営に関する課題を解決し，地域活性化を図ることを目的に10月21日（火），いちきアクアホールにおいて，公民館・行政関係者65名が参加して研修を行いました。

参加者は事例発表や講演を通じて理解を深め，今後の運営改善につながる知見を共有しました。

事例発表「中央地区まちづくり協議会の特色ある活動」

＝ 中央地区まちづくり協議会会長　鮫島 功 氏 ＝

鮫島さん（右）と中木屋さん

いちき串木野市の中心部に位置し，市の人口のおよそ12%を占める「中央地区まちづくり協議会」が事例発表を行いました。

移動人口が多く，地縁や血縁が薄く，住民同士の結びつきが弱い地域ではありますが，それでも塩づくりや木工教室，凧揚げ大会，「なつかシネマ」映画会，行方不明者捜索訓練など他の地域にはない多彩で特色ある取組が多く見られました。

参加者からは，「地域の特色を生かし，住民のニーズに応じた多岐にわたる取組が参考になった」という意見などが寄せられました。

公民館経営に今求められているものは‥

講演「避難行動と避難生活　両市での災害の備えを考える」

＝鹿児島大学共通教育センター教授 岩船 昌起 氏＝

岩船教授

鹿児島県専門防災アドバイザーも務める岩船教授は東日本大震災，口永良部島噴火，熊本地震の被災地などに赴き，発災時の避難行動や自治体の災害対応を検証されています。その研究成果を基に，具体的な指導をされました。

岩船教授は，日置地区が市来断層帯の影響で地震・津波の恐れがあることを指摘され，発災時には避難環境に応じて適切な「身の守り方」を選択するべきで，やみくもにいわゆる「ダンゴムシ（もどき）」のポーズはとるべきではないと助言されました。

また，避難所等での避難生活の事前準備は丁寧に行い，直接死・関連死を防ぎ，自ら「殉職」するような行動はしてはならないと強調されました。

ポイント！

★適切な避難行動を事前に考えておく
★ストレスが少ない避難生活を準備する

研究会の様子

本研究会で得た知見を，自分が関わる公民館の実情に合わせ，運営や活動にぜひ生かしていただきたいと思います。

友情の輪広がる日置市・大垣市青少年交流事業

本市は，関ヶ原合戦を通じて歴史的関わりの深い岐阜県大垣市と，フレンドリーシティとして友好関係を深めています。その一環で，吹上地域の児童生徒との交流事業（派遣と受入の隔年開催）を，平成８年から行っており，今年は日置市が受入を担当する年でした。

７月30日（水）から８月２日（土）までの期間，引率者を含む12名の団員を受け入れ，市長への表敬訪問をはじめ，日置市の魅力が伝わるよう，天昌寺跡等の史跡めぐり，美山地区での沈壽官窯見学や手びねり陶芸体験，セイカ食品アイス工場見学，甲冑着付け体験など多彩な交流プログラムを実施しました。

参加した大垣市の皆さんからは「日置市の魅力を改めて感じるとともに，大垣市と日置市のつながりがとても深いことを実感した。これからさらに交流を深め，もっと詳しく知りたい」という感想が聞かれました。

また，日置市を飛び出して，平川動物公園や西郷隆盛像，いおワールドかごしま水族館にも案内しました。

親睦を深めた子供たちは，訪れる先々で笑顔を見せ，楽しそうに語り合っていました。

今回の事業を通じて，両市の友情の輪はさらに広がりました。

島津豊久公墓前での祭文読み上げ

魅力ある子ども会大会をめざして

８月２日（土），日置市吹上実総アリーナにて，東市来地域子ども会大会を開催しました。子ども会員・育成者合わせて125名が参加しました。活動発表は単位子ども会がそれぞれ特色ある取組を披露し，今年は上市来校区が担当しました。荻地区は活動発表に加えて，勇ましい棒踊りを元気いっぱいに披露してくれました。

また，日置市をホームタウンとするフラーゴラッド鹿児島の選手によるバレーボール教室も行い，まず運動時の安全教育（KYT）を受けたのち，選手と一緒に体を動かして交流しました。子供たちの目はキラキラと輝き，楽しさが伝わってくる時間になりました。大会後の感想でも，子ども会員・育成者ともに高い評価をいただきました。

少子化や家庭環境の変化により子ども会が抱える課題は増えています。今後はより魅力ある子ども会にするため，各年代の子供たちの意見を取り入れた日置市版郷中教育を進めていきたいと思います。

選手の皆さんと記念撮影

アドベンチャーinこしき島

実施日：令和7年7月28日（月）～7月31日（木）
参加者：小学生22名，中学生8名，高校生ボランティア7名
事務局10名　合計47名

～３泊４日の充実した研修～

【１日目】出発式を行い，フェリーに乗船，甑島へ向かいました。下船後は里公民館で昼食，KYT（危険予知）トレーニングを実施，道中の危険について全員で話し合いました。

午後４時，いよいよ上甑自然公園キャンプ村へ出発，11ｋｍ約１時間半かけて灼熱の中みんなで声をかけ，助け合いながら無事到着しました。

【２日目】午前中は，甑島見学を行いました。甑大橋や甑ミュージアム，長目の浜等を見学，午後からは化石キーホルダー作りに挑戦しました。夕食後はキャンプファイアーの火を囲み，灯の集いからレクリエーションをして楽しい時間を過ごしました。

【３日目】キャンプ村から中甑交流センターに自転車で移動し，体育館でジュニアリーダーを中心にレクリエーションをしました。その後は鹿の子大橋までサイクリングの予定でしたが，カムチャッカ沖の地震による津波警報発令により中止。夕食のバーベキューの後，天体観測をしました。

【４日目】早朝５時半に起床，全員で食事を取り，６時過ぎにはキャンプ村を出発，里港を目指しました。８時には里港に到着，全員が元気に串木野港に到着しました。

子供たちからは「長い距離で疲れたけど，海がとてもきれいだった」，「きつい時に声をかけてくれるお兄さんがいたので頑張れた」，「班ごとに出し物をして，より他の班との仲が深くなった気がした」などの感想が寄せられました。

《引率者より》

本市のアドベンチャー事業の最大の特徴は，自転車でキャンプ村まで11km移動すること，夕方とはいえ，気温は30度を超え炎天下の状況です。しかも上り坂は，安全を考慮して自転車を押します。初めこそ順調に進みますが，上り坂の頂上付近になるとみんな疲れがピークに。そんな時，高校生ボランティアの生徒が「がんばれ」「大丈夫か？」「後もう少しで休憩ポイントだよ」と声援を送ってくれます。また，後方から車が近づくとホイッスルを鳴らして知らせてくれます。そして無事レクリエーション村に着くと，１人１人とハイタッチ！ ボランティア高校生7名の頼もしい姿に本当に感激しました。

わが町から ～ 三島村教育委員会

「10歳の記憶，21歳の涙」
～中学生が聞いた“戦争の記憶”～

戦後80年を迎えた今年，三島村の黒島で暮らす中学生が地域の戦争体験を学ぶ様子が地元テレビ局で放送されました（MBCテレビ「昭和からのメッセージ」）。

太平洋戦争末期，黒島には故障した特攻機が相次いで不時着し，住民が隊員を看病した歴史があります。山村留学制度で黒島に暮らす三島大里学園８年生の土方蔵之介さんは，授業をきっかけに地域の歴史に関心をもち，当時10歳だった米盛レイ子さん（90歳）から話を聞きました。米盛さんの家には東京出身の江名武彦少尉（当時21歳）が身を寄せ，農作業を手伝いながら島民と交流を深め，終戦を迎えたことなど，戦争の記憶が深く語られました。

「自分の誕生日に白米を口にして涙した江名さんの姿が忘れられない」と語る米盛さん。土方さんは「戦争の記憶を次世代へ伝えたい」と決意を新たにしました。

「若者が命をかけた過去」を知り，平和の尊さを学ぶ土方さんの姿は，地域の歴史を次世代へつなぐ大切さを改めて教えてくれます。

米盛さんから話を聞く土方さん

※ 放送された番組名等
- ○ 番組名：「夜中に泣く声が」小さな島に不時着した特攻機と21歳隊員
  ～中学生が聞く戦争の記憶（MBCニューズナウ 2025年8月1日放送）
- ○ アーカイブ：https://www.youtube.com/watch?v=L2lEyrhf8cI

村の花
丸葉さつき

わが町から ～ 十島村教育委員会

スチールパンの活動 ～ 宝島 ～

スチールパンは，カリブ海最南端の国「トリニダード・トバゴ共和国」でドラム缶を加工して作られる音階のある打楽器です。1997年に宝島の島民３名が現地で製作方法や演奏技術を学び，宝島に普及させてから約30年が経過し，近年は「マリンキッズタカラ」として活動しています。

今年度は，ファミリー劇場に来島されたフルート，チェロ，バイオリン，ピアノ奏者とのアンサンブル共演も実現しました。また，奄美大島での演奏会にも出場し，さらにボゼ便やトカラマラソンなど村内行事や敬老会など，島内のさまざまなイベントでも演奏を披露して好評を得ています。

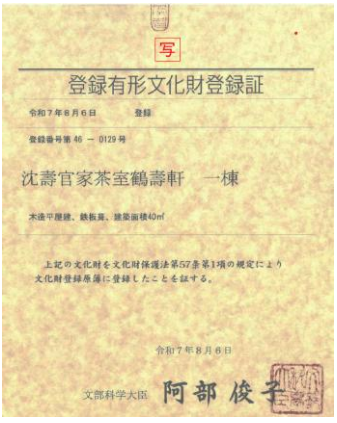
ファミリー劇場での共演

通常は，児童生徒たちが日曜日の午前中に学校の体育館に集まり，熱心に練習に取り組んでいます。

スチールパンにはいくつかの種類があり，大きなドラム缶から作られた低音担当の「シックスベース」，リズムと主旋律を担当する「テナーパン」のほか，宝島では「ダブルテナーパン」や「ギターパン」，「ダブルセカンドパン」も使用されています。

宝島学園の児童生徒の多くが参加しており，明るく軽やかなスチールパンの演奏を響かせています。ぜひ宝島にお越しいただき，スチールパンの魅力あふれる音色をお楽しみください。

令和７年８月６日付で沈壽官家茶室鶴壽軒（ちんじゅかんけちゃしつかくじゅけん）が国登録有形文化財に指定



薩摩焼窯元「沈壽官窯」の敷地内にある，昭和44（1969）年に建てられた木造平家建の茶室です。茶道の家元裏千家の伝統的な茶室様式に洗練された職人の建築技術があらわれており，造形の規範となっているものとして，登録有形文化財に登録されました。茶室の軒下にある扁額は裏千家第15代家元千宗室氏の筆によるものです。

（写真提供は日置市教育委員会）

編集後記

令和７年も残りわずか。異常気象という言葉がもはや「異常」ではなくなりつつある今、私たちの暮らし方や学び方にも変化が求められています。地域の知恵や助け合いの力を今こそ再確認する必要があるのではないでしょうか。（事務局　田中）